

誰もが必要とされる

# たくさんのHAPPYを 作り出すコーディネートの ススメ

社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
全国ボランティア・市民活動振興センター



# はじめに

- この冊子は、これまでボランティア活動やサービスの対象者としてのみ捉えられがちだった高齢や障害などによってひきこもりがちの方、社会とのつながりや役割が見いだせず生きづらさを感じながら孤立している人たち自身が、ボランティア活動やセルフヘルプ活動等によって社会参加や社会貢献をし、社会とのつながりや自己有用感を取り戻していくコーディネートの提案をしています。
- 誰もができること・できないことがあるという前提のもと、障害や疾病に着目したコーディネートではなく、その人の強みや好きなことに着目したコーディネートを提案しています。
- 冊子のストーリーは、ある経験の浅いコーディネーターの悩みや展開に沿って進んでいきます。ストーリーや事例は全国の社協の様々な実例を参考に汎用性のあるものに加工しています。



# 登場人物



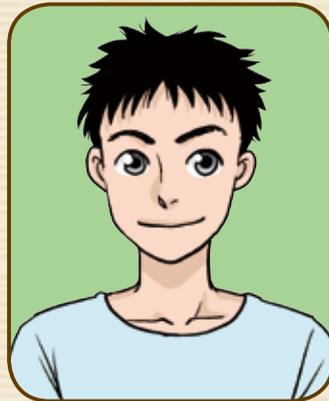
やなぎだ しずる  
**柳田 静さん**  
うつ病になってから3年間、家の外に出られなかったが、パソコンやインターネットにとっても詳しい



たちばな  
**立花 しおりさん**  
2児の母。話し好きで出かけることも好き。先天性の視覚障害がある



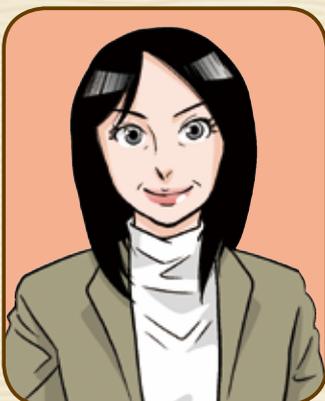
やしろ きょうこ  
**社 協子さん**  
社協暦3年の市社協職員。ボランティアコーディネートを担当



きのした うきょう  
**木下右京さん**  
社さんと同じ職場の先輩。社協暦7年



たかぎ ことこ  
**高木琴子さん**  
社さんと同じ職場のケアマネジャー



すずかわ なつよ  
**涼川夏代さん**  
路上生活者や生活困窮者支援をしているNPO法人代表



となり けんいち  
**隣 憲一さん**  
となり町社協の職員。社協暦15年



なべ た よう  
**鍋田 陽さん**  
県社協職員。社協暦12年

# もくじ ● CONTENTS

## 第1章

### 実践編 .....5

その時、コーディネーターはどうする？

#### 1 立花さんがボランティアセンターを訪問! ..... 6

アセスメントのための**5つのヒント** ..... 6

＜アセスメント・発見シート＞ ..... 8

#### 2 コーディネートはどうする? ..... 10

＜活動プログラム＞

人と関わるのが好きな人、さらに人と関わって世界を広げよう! ..... 11

趣味や特技が活きる&楽しく活動ができる! ..... 12

あなたの事務能力を必要としている人がいます! ..... 14

家庭的なあなたの力を貸してください! ..... 15

一緒に汗をかく喜びを感じましょう! ..... 16

スポーツマンにおすすめのプログラム ..... 17

あなたが経験してきたことこそが宝です! ..... 18

活動プログラム作りのための**5つのヒント** ..... 19

#### 3 活動を継続してフォローするには? ..... 20

継続・発展のための**5つのヒント** ..... 20

## 第2章

### 社協VC戦略 ..... 23

ひとりじゃない! 社協の総合力を発揮せよ

#### 1 あきらめないで! 社協内部でうまく連携するための**3つのヒント** ..... 24

#### 2 時間もなし、理解も得られない、 …それでも乗り越えるための**3つのヒント** ..... 25

## 第3章

### 理念編 ..... 27

コーディネーターとして、大切にすることは?

#### 1 あなたは何を大切にしていますか? ..... 28

#### 2 たくさんのHAPPYを作り出すコーディネートのおすすめ ..... 30

# 実践編

その時、  
コーディネーターは  
どうする？



協子さんは社協暦3年のボランティアコーディネーターです。いつもボランティアセンターによせられる困り事や依頼に対して、それを解決するボランティア活動のコーディネートをしていました。うつ病にかかっている柳田さんは、とても魅力的な人なのに、いつも「自分は人に世話ばかりかけている、生きているのが申し訳ない」と言い、家に一人で閉じこもりがちです。

協子さんは、なんとか柳田さんができることを活かして、柳田さん自身が人から感謝されるような機会を作り、自信を持ってもらいたいと思っていました。



# 1 立花さんが ボランティアセンターを 訪問!



 ある日、ボランティアセンター（以下、VCという）に視覚障害のある立花さんがボランティア活動をしたと相談に来ました。協子さんはいつも使っているボランティア登録カードで受付をしようと思いましたが、立花さんの希望は漠然としたものであり、ボランティア活動のイメージも曖昧なようでした。また障害についても何をどこまで聞いたらいいのかわからなくなってしまいました。その日はとりあえずひととおり話を聞き、木下先輩と相談して今後に向けてアセスメントがしやすいような様式を考えることになりました。

第1章

実践編

話しやすい雰囲気を作りながら、言葉のキャッチボールをしよう。でも尋問にならないように注意!!

いつもの「ボランティア活動希望者登録カード」だけに頼らず、目の前にいるその人をより深く知るために、8ページで紹介する「アセスメント・発見シート」を活用しながら、次のことに留意してコミュニケーションをはかってみましょう。

## 「アセスメントのための5つのヒント」

どうしてボランティアしたいと思ったのですか？  
どんな活動をしてみたいですか？

ヒント!



### 1 まずは、本人の希望を聞くことから

同じ「ボランティアをしたい」と来る方でも、「医者に言われたから…」「友達が欲しいから…」「なにもすることがないから…」「誰かの役に立ちたいから…」など、その理由は様々です。

まずはその気持ちを確認し、本人がボランティア活動に求めているものを探りましょう。場合によってはボランティア活動以外の選択の方がいいこともあります。

ご本人を「理解」し、気持ちに「共感」することから始めましょう。

得意なこと、好きなことは何ですか？  
どんな経験をしてきましたか？

ヒント!



### 2 本人の強みとなることを一緒に探す

いろいろと会話が深まってくると、過去・現在への本人理解が深まることでしょう。また、関わりのある社会資源など、本人を取り巻く環境もわかってくるでしょう。

本人の強み（得意分野、経験、希望や目標への意思）を相互に確認しましょう。

「何もとりにえない」「できることなんて何もない」と言う人も、その人がこれまで経験

してきたことそのものが「強み」となります。その人らしい社会参加、輝ける活動の場について、一緒に探していきましょう。

そして、この「強み」を活かしてコーディネートをしていきます。障害や疾病への先入観（〇〇だから…できないだろう、〇〇障害の人にはこんな活動…）をもたないことが重要です。

活動するにあたって不安なことはありますか？  
お手伝いが必要なことはありますか？



### 3 配慮が必要なこともあわせて確認する

活動するにあたって、何か不安なことはないか、配慮の必要なことも確認しましょう。

安全面への配慮や、活動の継続のためには大切な確認です。なぜこの質問をするのかを伝えながら聞きましょう。

本人の活動希望内容と、実際に紹介できる活動やコーディネートにずれが生じないよう、ここは抑えておいたほうがよいでしょう。

22ページのサポートする体制も参考にしましょう。

- ・一人だと不安 or 人と一緒に苦手
- ・一緒に活動する人たちに知っておいてほしい病気のこと、薬のこと…
- ・移動が不安
- ・医者から気を付けるように言われていることがある
- ・家族は理解してくれるだろうか…
- ・あまりお金がかかると困る…
- ・活動費負担の限度など（交通費、食費、その他）



### 4 信頼関係

初めてボランティアをしようとボランティアセンターを訪ねるのには、勇気がいるもの。コーディネーターが、最初にしっかり話を聞いてくれることにより、活動に入ってから、何かあったら相談に乗ってくれる人であるという印象をもってもらえます。

これからの長いお付き合いの始まりです。傾聴や共感につとめ、言ってほしくないことは他言しないことを約束するなど、信頼関係を築く対応を心がけましょう。



### 5 他機関連携

コーディネーターよりも早くから、保健・医療・福祉の専門職（医師、保健師、ケースワーカー、ケアマネジャーなど）が関わりをもち、それぞれのアセスメントをしています。

本人のことをより理解するために、またより良い支援を行っていくために、情報共有したり一緒に関わっていくことが望ましいと思われます。ご本人の了解を得て行いましょう。

私たちケアマネジャーも、  
ご本人が活躍する場ができることは  
うれしいんです！



# アセスメント・発見シート【手持ち用】

初回記入日： 年 月 日

名前	生年月日	性別
----	------	----

連絡先	住所	交通手段
-----	----	------

どうしてボランティアしたいと思ったのですか／どんな活動をしてみたいですか

P6 ヒント 1 参照

## 「得意なこと、好きなことは何ですか」

P6 ヒント 2 参照

コミュニケーション (P11)	人と関わることが好き・話好き
	子ども好き
	世話好き
	友達を作るのが得意
芸術・文化 (P12、13)	趣味・特技がある（音楽系、演奏・鑑賞など） ⇒詳しく（ ）
	趣味・特技がある（文化系、読書・絵・手芸・写真・衣装など） ⇒詳しく（ ）
	趣味がある（娯楽系、映画・ゲーム・食べることなど） ⇒詳しく（ ）
事務・作業 (P14)	字を書くのが得意（習字・ペン字など） ⇒詳しく（ ）
	パソコンやインターネットが得意（HP作成・デザイン作成など） ⇒詳しく（ ）
	単純作業・地道な作業が好き・得意 ⇒詳しく（ ）
家事 (P15)	料理が好き・得意
	洗濯・掃除が好き・得意
	裁縫が好き・得意
園芸・大工 (P16)	園芸が好き・得意
	日曜大工が好き・得意
スポーツ (P17)	体を動かすことが好き・得意なスポーツがある ⇒詳しく（ ）
	出かけることが好き ⇒詳しく（ ）
その他	その他（ ）

## 「どんな経験をしてきましたか」

経験 (P18)	子育ての経験がある
	介護の経験がある
	仕事をしている・していた ⇒詳しく（ ）
	学校に行っている・行っていた・行けなかった ⇒部活・得意な教科など（ ）
	被災経験がある（ ）
	その他の経験（ ）

活動をするにあたって何か不安なことはありますか（家族の理解・金銭的なこと・病気のことなど） **P7 ヒント3 参照**

保健・医療・福祉で関わっている人（ケアマネジャー・医師・ワーカーなど）はいますか  
何か気をつけるように言われていることなどはありますか  
その人たちと情報共有してもよいですか **P7 ヒント5 参照**

「お手伝いが必要なこと・心配なことはありますか」 **P7 ヒント3 参照**

外出・移動に配慮や支援が必要 ⇒車いす（手動・電動）・杖・白杖・盲導犬・ガイドヘルパー
読み・書きに配慮や支援が必要 ⇒点字使用・メールやパソコン使用・上肢障害・字が読めない
手先を動かすことや地道な作業に配慮や支援が必要 ⇒上肢障害等・多動
言語コミュニケーションに配慮や支援が必要 ⇒聴覚障害（手話・触手話・筆談）・言語障害（トーキングエイド等）
人と関わるのが苦手・慣れていない ⇒緊張する・寡黙になる・自己主張してしまう・攻撃してしまう
排泄・食事・更衣などに支援が必要 ⇒全介助・一部介助（ ）
一人での活動に不安がある
その他（ ）

<経過記録>

/ /
/ /
/ /
/ /
/ /
/ /
/ /
/ /
/ /
/ /

このシートはご本人に書いてもらう「登録カード」のような想定ではなく、コーディネーターが本人や関係機関からの聞き取りにより書くイメージです。必ずしも初めから、すべての項目を詳細に聞き取るものではなく、継続的に関わっていく中で書き足しながら使っていきます。既存の「登録カード」とセットでご活用ください。自分でも、その人をより深く発見するための項目を加えてみましょう。

様式ダウンロード ⇒ <http://www.zcwvc.net/>





## コミュニケーション

## 人と関わるのが好きな人、さらに人と関わって世界を広げよう！

こんなことが得意・好きな人には…

コミュニケーション	<input type="radio"/>	人と関わるのが好き・話好き
	<input type="radio"/>	子ども好き
	<input type="radio"/>	世話好き
	<input type="radio"/>	友達を作るのが得意

おしゃべりが  
大好きです

第1章

実践編

例えばこんな活動はどう？

話好きな人、世話好きな人、友達を作るのが得意な人には…

個人宅や福祉施設での話し相手・傾聴ボランティア

外出付き添い

学校などの福祉教育の場面で講師として自分の経験を話したり、子どもたちと交流

サロンやセルフヘルプグループの手伝い・呼びかけ人など／自宅をサロンの場として提供

子ども好きな人には…

おもちゃ図書館活動／子育てサロンの手伝い

## 応用編 【サロンの場として自宅を開放】

高齢や障害により、自分一人では外にはなかなか出られないけど、話好きで家に人が来るのは大歓迎という人には自宅をサロンの場として提供してもらったらどうでしょうか？

高齢者が集まるサロンであったり、子育て親子が参加する子育てサロンであったり、誰でも自由に参加できる共生型サロンであったり、形は様々あります。

サロンの場として自宅を提供して、集まった方とおしゃべりをするのも大切なボランティア活動です。定期的を開催することで、サロンの運営ボランティアや参加者が本人の見守りをするにもつながります。

また家を借りることで、参加者は家の中での移動などの生活の工夫を学ぶこともできるのです。

## 連携先

サロンボランティア・学生・民生委員・行政など

## 本人のモチベーションが上がる工夫

- ・家を提供することで、近隣の人から感謝される機会をつくりましょう。
- ・単にサロンとして家を貸すだけでなく、本人もサロンボランティアの一員としての役割を作りましょう。

## 想定される成果（本人・活動先・連携先等）

**本人：**話ができ、寂しさが解消されます。定期的に来ることは生きがいにもつながります。また間接的に見守りをしてもらえるという効果もあります。

**活動先・連携先：**身近な地域にサロンの場が増えます。

**サロン参加者：**公共施設とは違った一軒家であることから、実家に帰ったような開放感が得られます。

## 継続・発展のヒント

長続きさせるためには、大がかりなサロンではなく、近隣の人が気軽に集まれることを大事にしましょう。

双方の信頼を得るコーディネート力が重要なので、本人に関わる専門職とも連携しましょう。鍵の管理など、安全面への配慮も必要です。

## 趣味や特技が活きる&楽しく活動ができる!

こんなことが得意・好きな人には…

芸術・文化	○	趣味・特技がある（音楽系、演奏・鑑賞など） ⇒詳しく（ ）
	○	趣味・特技がある（文化系、読書・絵・手芸・写真・衣装など） ⇒詳しく（ ）
	○	趣味がある（娯楽系、映画・ゲーム・食べることなど） ⇒詳しく（ ）

例えばこんな活動はどう？

### 音楽系が好きな人…

施設やサロン、学校などで演奏披露／在宅高齢者や在宅障害者の音楽鑑賞などの付き添い

### 文化系が好きな人…

誕生会などで似顔絵や記念写真のプレゼント、広報誌の挿絵、貼り絵など共同作品の作成／行事の写真撮影・広報誌の取材や編集／手作り品を販売して売り上げを寄付／障害者の衣服やおもちゃの作製

### 娯楽系が好きな人…

デイサービスなど福祉施設のレクリエーションへの付き添い  
囲碁・将棋・ゲームetc／在宅高齢者や在宅障害者の趣味の付き添い

## 応用編①【似顔絵ボランティア】

イラストや絵の得意な人には福祉施設やサロンでの誕生日会で似顔絵を描いてもらうのはどうでしょうか。写真や誕生日カードを贈ることが多いと思いますが、似顔絵はなかなか描いてもらえる機会が少ないので、喜ばれるでしょう。また、広報誌などの挿絵や、名刺や名札への似顔絵を描いてもらったり、イベントでの似顔絵コーナーなど活躍の幅は広がります。

### 連携先

介護現場やふれあいサロンなど  
広報誌を発行する社協や行政、NPO、福祉施設など  
イベントなどを行う商工会や商店街など

### 本人のモチベーションが上がる工夫

- ・本人が持っているスキルや特徴を見つけましょう。
- ・アイディアを採用したり、自主的に取り組んでいると感じられる目標を決めましょう。
- ・まわりから感謝されたり、ほめられるような機会を作りましょう。

### 想定される成果（本人・活動先・連携先等）

- 本人：**自分の興味や強みを理解することができ、まわりに理解されることで能力向上や開発機会が生まれます。  
また達成感を得られることで、必要とされている認識が生まれ、意欲向上につながります。
- 活動先：**レクリエーションの充実や広報誌の充実などとともに、地域にひらかれた施設づくりが可能となります。
- 連携先：**新たなコラボレーション（園芸の取り組みを絵で記録してもらう＝園芸ボランティアとのコラボ）など様々なコーディネートの可能性が広がります。

### 継続・発展のヒント

自己決定と後方支援に心がけ、メリハリある計画を本人と一緒に考えましょう。  
同じ人からだけでなく、定期活動やイベントなど様々な人から達成感を得られる活動の場を確保しましょう。  
活動先・連携先が障害に対して十分な理解をしてもらえるよう、必要に応じて話し合いの場を設けましょう。



## 応用編②【手づくりおもちゃ・小物づくり活動】

手芸の得意な人には手作りおもちゃに挑戦してもらってはいかがでしょうか？

手芸好きな人達が集まって子どものための手づくりおもちゃ活動をしているグループに入るのもいいでしょう。布のおもちゃや布の絵本を作って、おもちゃ図書館や子育て支援団体などに寄贈することもできます。

時には子育て中のママ達の手づくりおもちゃ講座をするのもいいでしょう。

グループで和気あいあいとおしゃべりを楽しみながらも、一人ひとりのペースで参加できる活動です。

### 連携先

児童館、民生委員・児童委員、子育てに関係するNPOやボランティア、図書館

### 本人のモチベーションが上がる工夫

- ・作品展など、時には作品が展示されるような機会を作りましょう。
- ・実際におもちゃを使った子どもやお母さんの喜びの音が伝わることで、一番のモチベーションにつながることでしょ。

### 想定される成果（本人・活動先・連携先等）

**本人：**自分の力で無理なく活動をすることで、地域の人に役に立ったことを実感できます。また新しい仲間もできます。

**活動先・連携先：**新しい仲間が増えることで、活動が安定したり、活動を広げることも可能となるかもしれません。

### 継続・発展のヒント

自分の得意とすることや好きなことが活動となり、無理なく楽しく取り組み、地域の役に立つという経験をすることで、他の活動や地域課題への関心につながっていくかもしれません。様々なボランティアグループや地域活動、当事者団体の活動など情報の提供や情報交換、交流の場も作りましょう。

## あなたの事務能力を必要としている人がいます!

こんなことが得意・好きな人には…

事務・作業	○	字を書くのが得意 (習字・ペン字など) ⇒詳しく ( )
	○	パソコンやインターネットが得意 (HP作成・デザイン作成など) ⇒詳しく ( )
	○	単純作業・地道な作業が好き・得意 ⇒詳しく ( )

例えばこんな活動はどう?

**字を書くのが得意な人…**

あて名書き／書道教室の先生／看板づくり

**パソコンやインターネットが得意な人…**

入力作業／PRちらし作り／情報誌づくり／ブログ更新／テープおこし／メーリングリスト作業

**単純作業が得意な人…**

新聞の切り抜き／使用済み切手整理／発送作業／本の整理／印刷作業

コツコツやることは  
得意です



### 応用編 【ボランティアセンター情報誌発行助っ人ボランティア】

人と関わることは苦手だけれど、何か役に立つことをしたいというニーズをもつ人にはボランティアセンター情報誌の発行の助っ人になってもらってはいかがでしょうか?

レイアウトを担当したり、印刷や折り作業・発送作業の手伝いなど、得意分野を活かしたボランティアをしてもらうことができるのでは!

情報誌として形にも残り、達成感のある活動です。

#### 連携先

医療ソーシャルワーカーや障害者相談支援センター、ケアマネジャー、生活保護ケースワーカーなど、本人に個別に関わっている専門職  
就労支援を進めている団体・NPO  
既存のボランティアグループ・スタッフ

#### 本人のモチベーションが上がる工夫

- ・一回の作業量を決め、達成感をつくりましょう。
- ・ただ単純作業をしてもらうだけでなく、本人の得意な作業をみつけ能力に応じた作業を提供しましょう。
- ・慣れてきたら印刷や折り作業・発送作業はグループで取り組み、おしゃべりをしながら作業できる環境を作ります。その中に世話好きなボランティアを入れることで話しやすい雰囲気を作りましょう。

#### 想定される成果 (本人・活動先・連携先等)

**本人:** 作業活動のために外出することで、日常生活にメリハリが生まれ、作業を通して他者と話す機会ができます。仲間づくりにつながることも期待されます。自分の役割ができ、それをこなすことで、就労への意欲に結びつくこともあるかもしれません。

**活動先・連携先:** 事務的な作業を補助してもらえるばかりか、作業に関わってもらうことでその団体のこともよく知ってもらうことができます。

#### 継続・発展のヒント

まずは定期的に来所することを目標にしましょう。  
ボランティアサロンやカフェとして、手作業をしながらおしゃべりをし、交流も図れる場所があると、様々なニーズをもった人々の受け皿にもなります。  
一人ひとりのペースで参加できたり、他の人と直接かわらなくてもよい空間もあるとよいでしょう。様々な人々が集まることで、また新たな活動を生み出していくことにつながります。

## 家事

## 家庭的なあなたの力を貸してください！

こんなことが得意・好きな人には…

家事	<input type="radio"/>	料理が好き・得意
	<input type="radio"/>	洗濯・掃除が好き・得意
	<input type="radio"/>	裁縫が好き・得意

例えばこんな活動はどう？

## 掃除・洗濯・裁縫が好きな人…

高齢者・障害児者福祉施設の洗濯や掃除・裁縫や衣類修繕等の手伝い  
在宅高齢者・障害者などの家事手伝い

## 料理が好きな人…

調理の手伝い（配食サービス・デイサービス・福祉施設など）  
ふれあいサロン・カフェの手伝い／料理教室の補助

## 応用編 【調理ボランティアとして活躍】

料理が好きな人は調理に関わるボランティアがオススメです。

例えばデイサービスや福祉施設での昼食作りボランティアに調理補助として加わることもできます。

みんなで作った料理を、ボランティアやデイサービスの利用者とともに食べるのも楽しいですよ。

また、配食サービスの調理補助に加わるという方法もあります。

慣れてきたらお弁当の配達にも同行したりすれば、配った先の方とふれあうこともできます。

## 連携先

福祉施設  
地域包括支援センター  
民生委員・児童委員  
NPO・ボランティアグループ

## 本人のモチベーションが上がる工夫

- ・調理ボランティアがスキルアップするための料理教室をひらいたり、みんなの得意レシピを集めたレシピ本を作るのもいいでしょう。
- ・裏方になりがちな調理ボランティアにライトアップをあてるような機会も作ってみましょう。

## 想定される成果（本人・活動先・連携先等）

**本人：**自分の力で無理なく活動をすることで、地域の人々の役に立つことを実感できます。好きなことを通じて新しい仲間もできます。

**活動先・連携先：**新しい仲間が増えることで、活動が安定します。新しいメニューも増えるかもしれません。

## 継続・発展のヒント

「食べること」は多くの人が楽しみにすることのひとつであり、交流プログラムなどにも取り入れやすく、より交流が深まりやすい効果があります。

施設やサロンだけに関わらず、当事者グループへの出張シェフや、農業ボランティアが作った野菜を作るなど、他のグループとのコラボも作りやすい活動といえます。

## 一緒に汗をかく喜びを感じましょう!

こんなことが得意・好きな人には…

園芸・大工	○	園芸が好き・得意
	○	日曜大工が好き・得意

例えばこんな活動はどう?

### 園芸が好きな人…

福祉施設や高齢者宅での野菜づくり作業の手伝い  
 除草作業（ひとり暮らし高齢者宅、公民館、図書館、老人福祉センター、保育園など）  
 通学路や道路沿いの花壇作り（老人クラブや町内会との連携）  
 講師や補助スタッフ（園芸教室、農業体験など）

### 日曜大工が好きな人…

高齢者・障害者や子育て中の家庭などの力仕事のお手伝い（庭・物置など屋外の荷物の移動や小修繕、転倒防止取り付け・火災報知器取り付けなど）  
 講師や補助スタッフ（大工教室、ものづくり塾、DIYなど）

## 応用編 【農作業を通した、ひとり暮らし高齢者との交流】

土いじりが大好きという方には農作業のお手伝いをしてもらってはどうか。  
 畑が広すぎて一人で農作業ができなくて困っている高齢者宅は結構あります。東北では避難してきている母親グループが高齢者宅の農作業をお手伝いしている例があります。  
 母親グループは畑を一部借り、高齢者から農業の指導をうけ、子どものために安全な農作物を栽培しています。定期的に訪問することで高齢者宅が交流の居場所になり、母親、高齢者、子どもたちがお互いを見守りながら楽しく野菜づくりをしています。

### 連携先

社協（地域福祉部門、VC、生活支援相談員）  
 地域包括支援センター、民生委員・児童委員、避難者グループ  
 NPO（避難者支援、子育て支援など）  
 行政、農協、青年会議所

### 本人のモチベーションが上がる工夫

- ・活動の中に本人たちが自由にできる部分を盛り込みましょう。
- ・成果（農作業のひと段落）がみえるように、「振り返り」をしっかり行いましょう。
- ・VC職員からの感謝だけでなく、お互いに直接感謝を述べてもらう場面を工夫しましょう。

### 想定される成果（本人・活動先・連携先等）

**本人：**成果が見えると積極性が芽生えます。本人の地域のなかでの居場所も増えるでしょう。  
**活動先：**休耕地などに人が入ると、それだけでその場所が活気づきます。人の活動している様子が見えるだけで、地域が華やぎ、心が和むでしょう。  
**連携先：**お互いがお互いを必要な相手と認め合うことができます。連携先によっては、園芸や農作業に関する資材や苗などの提供をお願いできるかもしれません。（農協、青年会議所、NPOなど）

### 継続・発展のヒント

いつも同じメンバーだけでなく、いろんな世代の人たちが関わり合う場面やふれあう場面をつくることを意識しましょう。単純な作業のボランティア活動にも幅が生まれ、次への展開につながっていくかもしれません。  
 「人が集う」「みんなで作業する」「食べ物（作物）を絡ませる」ことを発展へのキーワードに、他の活動とのコラボも考えてみましょう。

## スポーツ

## スポーツマンにおすすめのプログラム

こんなことが得意・好きな人には…

スポーツ	○	体を動かすことが好き・得意なスポーツがある ⇒詳しく ( )
	○	出かけることが好き ⇒詳しく ( )

例えばこんな活動はどう？

好きなスポーツ・得意なスポーツがある人…

障害者スポーツのお手伝い  
介護予防教室や健康体操のお手伝い  
福祉教育の講師として学校などでスポーツの披露

出かけることが好きな人…

福祉施設や在宅高齢者・障害者の外出の付き添い、一緒に外出を楽しむ

注意!

ガイドヘルプなど介助を伴う外出  
付き添いの場合は、しっかりと技  
術を身に付けてから活動しよう!



## 応用編 【スポーツを披露して子どもたちに大人気】

何かのスポーツを一生懸命やっている方は、学校などでやっている福祉教育の機会に、スポーツのできる講師として活躍してもらおうのがオススメです。

盲人卓球や盲人バレー、車いすサッカーや車いすバスケなどなど、子どもたちが知らないスポーツはたくさんあります。

スポーツをしている写真や映像を交えたり、実際に子どもたちがそのスポーツを体験できるような機会をつくれれば人気者になること間違いなしです!

## 連携先

学校  
障害者スポーツ団体  
地域のボランティア など

## 本人のモチベーションが上がる工夫

スポーツのことは子どもたちは非常に興味を持ちます。実際に使っているボールや道具などを見せてもらったり、スポーツの様子を見せてもらうことで子どもたちは大喜びすることでしょう。可能であれば、子どもたちと一緒にスポーツを楽しむ企画が入るのもよいでしょう。

## 想定される成果（本人・活動先・連携先等）

**本人：**同じスポーツと一緒に楽しむことで、子どもたちとの距離が縮まるでしょう。

**活動先・連携先：**障害のある人の出来ることを知っていただくことや、スティグマ(画一的なレッテルを貼ること)を消し去る効果もあるでしょう。

## 継続・発展のヒント

福祉教育の一環としてプログラムを組む場合は、スポーツの楽しさと併せてバリアとなっていることも学んでいくことも必要です。

スポーツをするための移動に伴う困難や工夫、コミュニケーションや情報伝達に関する困難や工夫などについてもあわせて学んでいくとよいでしょう。そして、少しの工夫と周囲の理解によって「障害があってもすごい能力を発揮できるんだ」という場面を共有することができるといいですね。

# 経験

## あなたが経験してきたことこそが宝です!

こんなことが得意・好きな人には…

経験	<input type="radio"/>	子育ての経験がある
	<input type="radio"/>	介護の経験がある
	<input type="radio"/>	仕事をしている・していた ⇒詳しく ( )
	<input type="radio"/>	学校に行っている・行っていた・行けなかった ⇒部活・得意な教科など ( )
	<input type="radio"/>	被災経験がある ( ) その他の経験 ( )

例えばこんな活動はどう?

### 子育てや介護の経験を活かして…

子どもたちや高齢者と接する活動／子育てサークルや介護者の会の手伝い

### 仕事や学校の経験を活かして…

学校や地域の福祉教育の場で経験談を話す／ピアカウンセリングなど

### 同じ思いや経験をしたひとたち同士で…

セルフヘルプグループづくり／ピアカウンセリングなど

(例) 広域避難者の会づくりや体験集の作成、不登校の子どもを持つ親の会によるフリースペースづくり／まんが・イラスト教室／中途視覚障害者の会による点字・パソコン・音楽・スポーツの会／ひきこもり経験者の料理教室／生活困窮者のサロン／路上生活経験者の食事会／介護者の会などなど

## 応用編 【セルフヘルプグループを作ろう】

同じ思いや経験をした人たち同士が集まる場を作ってみませんか？

当事者でないとわからないことはたくさんあります。まずはサロンやフリースペースを作ることで、仲間を集めることから始めてはいかががでしょうか。

集まり、話をすることで、自然と情報交換や相談の場ができます。

路上生活経験者が集まったサロンでは、自炊などの生活スキルも十分でなく体調不良の人も多かったことから、自ら買い物や調理・会食・後片付けをして共に時間を過ごすことをしています。

グループが安定してきたら、なにか人の役にたてるような自分たちができるボランティア活動を探していくといいでしょう。

### 連携先

福祉事務所  
路上生活者支援のNPO・ボランティアグループ

一緒にやりましょう

### 本人のモチベーションが上がる工夫

例えば調理であれば食器準備係、切る係、味付け係、盛り付け係、洗い物係など、まずはグループの中での役割を作りましょう。そしてできたことはグループの中でも褒め合うことが大事です。徐々に、グループの外に対しても貢献できるようなボランティア活動の場を作っていく、成功体験を積み重ね、自己有用感を高めていくことを意識しましょう。

### 想定される成果 (本人・活動先・連携先等)

**本人:** 日課ができ、生活スキルが高まります。仲間意識が芽生え、日常的な助け合いにもつながるでしょう。

**連携先:** 必要とされていた路上生活を抜け出してから支援であり、協力関係ができます。

### 継続・発展のヒント

立ち上げにはコーディネーターによる後方支援が必要でしょう。自主的な動きにしていくには段階をふみ、まとめ役となるようなメンバーを作っていくような関わりが必要でしょう。



みんなで出し合った活動プログラムには共通したヒントがあり  
そうだったので、みんなで整理をしました。



## 「活躍プログラム作りのための5つのヒント」

ヒント!



### 1 場づくり ～なければ作る!～

すでにあるボランティア活動の中だけでコーディネートしようと思ったら、限りのある中で  
の提案にすぎず、本人の「強み」は活かしきれないこともあるでしょう。

むしろ「アセスメント・発見シート」から見えてきた本人の「強み」に結びつけるための場  
づくりを一緒につくりあげていきましょう。

●Ex. 「一人を取り組める場」、「みんなと一緒に取り組める場」

「同年代が集まる場」、「世代間交流の場」、「同じ趣味を持つ人の場」「同じ悩みを持つ人の場」

「出会いの場」、「活動の場」、「発表の場」、「次の活動に発展する場」等々

ヒント!



### 2 「楽しいこと」でつながる!!

同じ趣味をもつ人たちは年齢や性別、障害や病気の有無を超えていきます。「好きなこと」  
や「楽しいこと」によって様々な人がつながることができるのです。

「楽しみを共有する活動」を意識することで、活動の楽しさやつながる楽しさを感じ  
られることが必要ではないでしょうか。特に「食べること」に関することは多くの人が  
楽しみにすることのひとつでもあり、プログラムとして取り組みやすいでしょう。

ヒント!



### 3 「協同作業」をする!!

みんなで何かを育てる、育てたものをみんなで料理する、料理したものをみんなで食べるなど、  
プロセスを共にしていくものは継続的な活動へつながり、また結果がみえて達成感もあります。  
チーム対抗のゲームやスポーツなど、体を動かしながら楽しむものもいでしょう。

ヒント!



### 4 仲間づくり

本人の仲間づくりのためにも、共通の楽しみや協同作業でつながった人たちをグルー  
プ化することもいでしょう。

または共通の課題をもった人同士の「当事者グループ」をつくるというのもあります。  
そうしたグループにはピアカウンセリングの機能もあるでしょう。

グループの中での仲間づくりにつながるよう、想いを語り共有できる場づくりを心がけましょう。

また、人との接点が苦手な人は初めから無理やりグループに巻き込むのではなく、  
段階をふまえた声掛けが必要でしょう。情報発信も、広報誌だけでなく、ホームペ  
ージやFacebookなどを活用した呼びかけも考えてみましょう。

ヒント!



### 5 誰かに貢献できること

当事者グループや趣味のグループとして自分たちの中だけの活動を続けるのではなく、その  
グループとして何か地域に貢献していける活動につなげましょう。

自分たちの活動が誰かに貢献できることで達成感が得られ、意欲向上につながります。

活動のすべてを担うことはできなくても、部分的な小さな貢献でもその大切さを伝えること  
が必要でしょう。



# 活動を継続して フォローするには？



立花さんは始めは楽しく活動をしていましたが、もっと活動を広げたいとなった時に、移動の問題や新しい活動先の問題などが出てきました。そこで協子さんはまたコーディネーター仲間と相談をし、いろいろなヒントを得ることができました。

## 「継続・発展のための5つのヒント」



「他分野」「他職種」とも  
つながろう

いろいろな分野の  
NPOや団体がありますよ。  
お知り合いになりましょう！



### 【チェック】こんな団体・人とつながっていますか？

- 福祉分野に限らないボランティアグループ、NPO、当事者団体、福祉施設など
- ふれあいいきいきサロン、町会、自治会、子ども会、老人クラブ、女性会など
- 民生委員・児童委員、主任児童委員、保健所、地域包括支援センター、障害者地域生活支援センターなど
- 福祉分野以外のNPOや団体・行政機関など
- 学校、企業、商店街、青年会議所、商工会議所、農協、生協、YMCA、病院など

### 1 様々な情報をもつことがコーディネーターの力に！

地域の社会資源を知るためにこちらから出向き、キーパーソンとつながりましょう。

### 2 他分野の人と知り合うこと

今まで社協やVCとのつながりがなかったところ、あっても希薄な関係のところへもアプローチしましょう。

行政の中でも福祉分野以外の、教育、生涯学習、保健、医療、環境、国際交流、防犯、防災などともつながることで協働した事業展開もできるかもしれません。

様々な分野の専門家とつながることにより、多角的な視点でとらえることができます。

### 3 共通したニーズをもつ団体への相談

つながった団体のニーズを把握しておくことで、同じニーズをもつ団体につながることもできます。

### 4 こちらからも情報発信を

社協やVCのミッションや活動が、具体的かつ明確に伝わるようなメッセージをもって会うことが大切です。

### 5 やっぱり最後は「人間関係」

なんといっても顔を合わせコミュニケーションを重ねることから距離が縮まります。経験がなくても一生懸命に取り組む姿こそ、相手の心を動かすのです。

ヒント!



## 2 コラボは、 $1 + 1 = 3$ にも4にも…

VCだけで孤独なコーディネートをしていないでしょうか？  
発想やコーディネートを豊かにするためには、コーディネーターひとりのネットワークや発想だけに頼っては拡がりません。職種や分野を超えた幅広いネットワークを作り、相談してみることで思いがけないアイデアも生まれるでしょう。



### 1 コラボのコツはwin-win の関係

コラボは決して役割分担をするためだけのものではありません。  
コラボすることによって、どの団体にも、そして関わる本人にも多くのメリットができることが大切です。  
団体間是对等です。お互いの違いや役割を認め、弱みを補い合い、強みを出し合いましょう。

### 2 共通した目的・ミッションを

コラボのコツは、みんなの共通する目的、ミッションを明確にし、それぞれの持ち味を活かした役割を担えるようにすることです。そのためにはまず多様な団体や機関が出会い、互いの活動を知るゆるやかなつながりや、共通したテーマをもとにした出会いの場をつくることから始めるのもいいでしょう。

継続した連絡会の開催は、必ず前回の連絡会の振り返りをしながら、積みあがっていく会議にしていくことが大切です。

### 3 職場内のコラボも大事！

他職種のコラボと言えば、一番身近なのは職場の中での部門同士のコラボです。  
コーディネーター一人ひとりがもっている情報を共有し、相談し、チームで取り組める関係や他部門の職員とのコラボができる職場環境づくりから始めましょう。

ヒント!



## 3 モチベーションの継続

### 1 活動の中に楽しみや達成感を

本人もまわりのもみんなも楽しいと思える活動を作りましょう。  
農業や料理など、何かを作るような活動は達成感も得ることができます。  
成功体験が得られると、さらに活動に意欲が湧き、達成感が継続するエネルギーになるでしょう。

### 2 感謝され、ほめられる機会を

感謝されたり、ほめられることは誰だって嬉しいことです。人とつながることが難しいと思われるタイプの人、具体的に評価されることでやる気を増します。  
広報などで活動を取りあげることで発表の場を作ったり、活動先の人も含めたふりかえりの機会をつくり、「よかった点」を具体的に見つけ出し、評価することが大切です。

こうした変化を家族や周囲の人々も感じとり、その人に対する理解につながることも期待できます。



ヒント!



## 4 本人をサポートする体制を

### 1 活動のサポートを

初めてボランティア活動をする人には、コーディネーターと一緒に付き添い、活動の説明等を受けたり、本人が不安に思っている言葉にできないことを代弁することも必要です。活動がスタートした後も、本人にも、活動先に対してもいつでも気軽に相談ができる環境をつくりましょう。

移動やコミュニケーションなどにおいてサポートが必要な場合もあり、そこがうまくフォローできることで活動がスムーズにいきます。場合によっては本人のボランティア活動に寄り添うボランティアの存在が必要なこともあるでしょう。そうした活動をサポートできる人を作っていくことももう一方で大切です。



### 2 関係者間の協力体制を

本人の状態や環境が変化していくことに配慮し、保健・医療・福祉等の専門職と常日頃から協力体制をつくっておくと安心です。コーディネーター自身も病気や障害の正しい知識を得たり、困った時に相談できる医療分野の人脈も作っておくことが大切になります。

またこうした変化をキャッチするためにも、家族や活動先とも連絡をとりあい、フォローしていくことも必要でしょう。

### 3 地域の理解を拡げる

本人を理解し、活動の受け入れや、仲間として共に活動していく人やグループを増やしていく努力も一方で必要です。

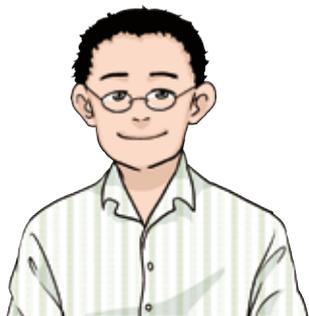
そうしたプロセスは福祉教育の機会ともなります。

同時に本人や団体が自ら「伝える」ことができるような機会づくりやエンパワメントも必要でしょう。

ヒント!



## 5 本人もまわりもHAPPYになれる豊かなコーディネートは豊かな福祉観や感性にかかっている!



一人ひとりの素敵なところをつねに探そう!

コーディネーター自身が先入観をもったり、障害という側面だけでカテゴライズしないことが大切です。コーディネーター自身が、「障害のある人がボランティア活動はできないのではないか」と思っていたら、このコーディネートはできません。

「〇〇障害のある人にはこう対応する」という対象理解ではなく、一人ひとりの個を大切に、その人のやりたいことや得意なことを活かして個別にコーディネートするのは、ボランティアコーディネートの基本でもあります。

# 社協VC戦略



ひとりじゃない!  
社協の総合力を  
発揮せよ



こうしたきめ細かいコーディネートが続けていきたいと思っ  
ている協子さんですが、自分自身の経験があまりないことや、  
兼務でボランティアセンターの担当をしているためなかなか時間が  
とれない、職場内でもなぜそんなことに時間を割いているのか理解  
が得られないという悩みが出てきました。そこで、コーディネーター  
仲間とともに、社協のVCである強みを活かすために、どんなアイ  
ディアがあるか相談しました。



# 1 あきらめないで! 社協内部でうまく連携するための 3つのヒント

社協の中には地域福祉活動推進部門と、高齢・児童・障害の在宅福祉サービス部門や日常生活自立支援事業・地域包括支援センター業務などの福祉サービス利用支援部門など、様々な部門があり、職種も様々です。多部門・多職種であることをプラスととらえ、うまく連携することでどの部門も社協らしさが増し、社協であることのメリットが発揮できるのではないかと気づいたのです。

ヒント!



## 1 社協全体で情報共有するための具体策

### 1 記録をきちんとつけよう

コーディネート経過などの記録を残し、必要に応じて職場内で共有しよう。また、後任にも引き継ぎましょう。

### 2 お互いがどんな仕事をしているか理解し合おう

まずはVCの仕事を他部門に説明することから始めよう。

### 3 それぞれの持っている情報・人脈を共有しよう

●Ex. 「こんなことができる人がいる」「こんなことしてほしい人がいる」  
「こんなおもしろそうな団体・施設がある」「こんな楽しいサロン、たまり場がある」  
「地域のキーパーソン（商店街の店主、民生委員・児童委員、自治会長、世話焼きな隣人 etc）」

### 4 情報共有の機会を工夫しよう

●Ex. 朝礼、他部門別のミーティングに参加・職場内掲示板・社内報  
部門別職員研修会への部分参加・職員全体ミーティング・職員全体研修会

まずは短い時間から、  
できることからでも!

嘆くのは、いろいろやってみてからでも遅くない!

情報共有とはよく言われるけど、  
どんな情報をどのように  
共有すればいいの?



ヒント!



## 2 社協全体で連携するための個別ケース検討会

### 1 本人の基本情報や、地域の基本情報を共有する。

8~9ページの「アセスメント・発見シート」の情報を活用するのもいいでしょう。

### 2 「本人のよりよい生活・生きがいくりのためにはどうするか」をみんなで考える

本人のやりたいことや強みを個別支援に関する部門と情報共有し、活躍の場を検討しましょう。自立支援に向けた質の高いケアプランを考えることにつながります。

### ③ ケース検討を通して、「地域にどのような場や取り組みがあるといいか」をみんなで考える

当事者グループづくりや、ボランティア活動づくり等、新たなアイデアへつなげていきます。

時には上司にも出てもらって  
アドバイスをもらうといいのよ！  
私たちのやっていることも  
わかってもらえるし。



ヒント!



## 3 社協全体で意思統一するための具体策

### ① 「助けられる」だけの人を作らない！

職員の共通認識として「誰もが必要とされる」機会を作ることの重要性を共有しましょう。

### ② 社協全体が、部門を越えてチームとして地域福祉に関わる。

個別支援に関する部門は、サービス提供やその調整だけではなく「本人が必要とされる場づくり・生きがいづくり」にも目をむけましょう。

地域福祉活動推進部門は、地域全体に関わるだけでなく個別の一人ひとりのニーズにも目を向けましょう。

そして、どんな部門でも地域福祉を推進するための役割があることを共有しましょう。

ヒント1・2をふまえて  
お互いの仕事を理解し合い、  
連携のメリットを実感して  
からの方が効果的

### ③ 方針化

ミーティングなどで方針を確認しましょう。社協の事業計画や活動計画などを作るのに合わせて方針化すると、事業ともリンクできるでしょう。



## 2 時間も無いし、理解も得られない、 …それでも乗り越える ための3つのヒント

外にも目をむければ  
いいんだね!

ヒント!



## 1 社協の事務局だけでやろうとしない。 地域には一緒にがんばってくれる住民がたくさんいます!

本人の希望や願いに共感し、活動に寄り添ってくれるボランティアを探しましょう。寄り添うことで、本人のもつ課題に気づき、ボランティアも自らの課題として考える学びの場になります。

寄り添うボランティアが増え、本人が成功体験を積み重ねていくことは、地域の福祉力向上にもつながります。

課題に気づき、自ら動き始める住民を増やすことこそ、社協の仕事です。





## 2 社協の外にも目をむけよう。 地域には頼りになる団体がたくさんあります!

### 1 社協は「担い手」としてよりも「つなぎ手」

それぞれの得意な人につなげていく「つなぎ手」であることを認識しましょう。

常に情報を発信・収集しながら、コーディネーター自身も「助けられ上手」になることをめざしましょう。

### 2 プラットフォーム・協働の場作り

地元密着で様々な社会資源とつながっている社協は、その団体同士がつながる場づくり＝プラットフォーム作りが大切な任務です。

プラットフォームの場をつくることから、「協働」は始まります。



## 3 他の社協にも目をむけよう。 相談する仲間はたくさんいます!

県社協も一緒に  
がんばります!

### 1 とんりの市区町村社協にも仲間はいる!

自分の地域にない社会資源は、あるところの社協をたどってお願いしてみましょう。

ボランティア団体同士の交流、セルフヘルプグループ同士の交流など社会資源を共有したり活用しあうこともできます。

ボランティア養成講座を共同開催するなど近隣の社協と一緒に事業をやることもできます。

迷った時には相談しましょう。



### 2 都道府県・指定都市社協・全社協もある!

県内・全国の優れた取り組みを把握したり、がんばっている職員同士がつながり、情報共有・議論できる場づくりをすることも都道府県・指定都市社協・全社協の仕事です。

こちらから県社協に相談したり、「来て見て頂戴」と声掛けしてみましょう。

### 3 社協は全国にネットワークがあり、たくさんの仲間がいる! それが最大の強み!

同じ「社協」というだけで、初対面でも分かり合えます。

同じ「社協」というだけで、情報も惜しみなく教えてくれます。

全国的な会議や、研修・研究会など、全国にアンテナをはることができます。

全国を見渡せば、がんばっている社協がたくさんあるのです!

# 理念編

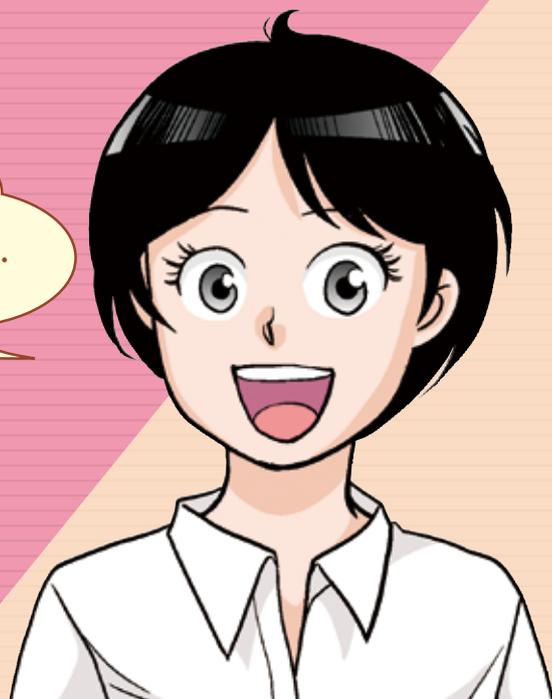
コーディネーターとして、  
大切にすることは?



近隣のワーカー仲間とともに考え、進めてきたコーディネートも、様々な取り組みと協働して展開したり、個別支援に関わる専門職と連携したりして、よい拡がりが見られるようになってきました。協子さんが考えるきっかけになった精神障害のある柳田さんも、必要とされる機会を作ることで居場所もでき、だいぶ人と関わることができるようになってきました。

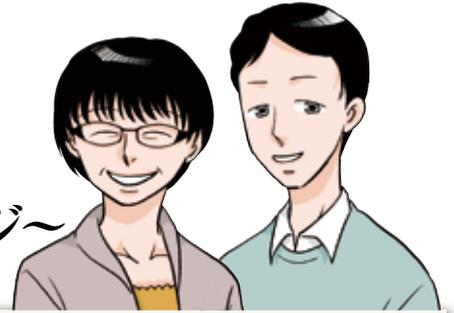
ある日柳田さんが「自分にとってボランティア活動は、何よりも元気をもらえる活動なんです」と笑顔で言ったのを聞いて、協子さんもケアマネージャーで関わっている琴子さんも、ともに喜びました。

こんな取り組みを  
大事にしていきたいナ...



# あなたは何を大切にしていますか？

～実践研究会メンバーからのメッセージ～



「人は必要とされることを必要とする」これはエリック・エリクソンの言葉です。ボランティアセンターを担当するようになって、本当にその通りだな、と実感する日々です。すべての人に、ほっとできる居場所・仲間・人と関われる場、そして、必要とされる実感・出番づくりを提供できるソーシャルワーカー、ボランティアコーディネーターでありたいですね。そのために、この実践活動で開発した「アセスメント・発見シート」はお役に立てると思います。本人をよりよく知ることから、全てが始まります。（鈴川）

ついつい、福祉を仕事にしてお金をもらう立場になっていると、“何でも代わりにしてあげないといけないのでは…相手に煩わしい思いをさせては行けないのでは…”とあってしまいがちですが、私が大切にしていることは、相手の仕事を奪わないことと、「その人」にも何かしらの役割を担ってもらうことです。役割があると本人の主体的な関わりが増したり、グループであるならば連帯感も生まれます。本人の自己有用感を伸ばすことが、やる気を引き出します。子育てと一緒にですね。（渡邊）

「その人」ができること・得意なことをしっかりとアセスメントしてください。たとえ重い障害があっても、その人が果たす役割が必ずあります。

地域のニーズを丁寧に集めていくと、意外なところにその人の役割が転がっていることがあるのです。特にピアカウンセリングは、その当事者でなければ共感できないことを考えると、多くの可能性を秘めていると思います。

（前山）

排除しない、されない地域をつくるのが、私達のミッション。  
誰もが、人との関わりの中でこそ、生き、成長し、生きる力を育てます。  
様々な個性をもった一人ひとりのニーズにあわせたオーダーメイドのボ  
ランティア活動プログラムをつくること、ボランティアセンターに来て良かつ  
たと思ってもらえる“出会い”をつくりたいと思っています。（鈴木）

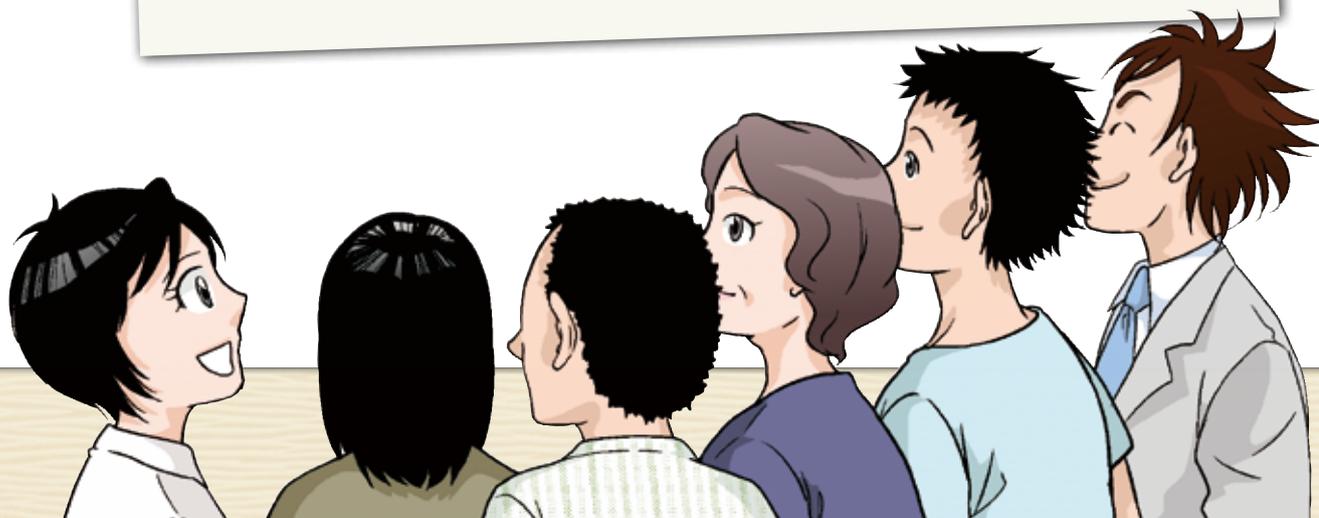
得意なこと不得意なことは人さまざまです。お互いに補完し合うからこ  
そ社会が成り立っていると思います。

「自分は一人ぼっちではない!」と感じ合える関係づくりを大切にしてい  
ます。

相手の話をよく聞き、確実に受け止めてははっきりと説明することが信頼  
関係を生み、そこから多くの可能性が広がると思っています。（兼松）

もし自分や家族が、なんらかの支援が必要な状態になったとしても、  
いつも誰かに助けられるばかりだとしたら、そんな自分に気兼ねをしてしま  
うと思いませんか？

もちろん医療や福祉の制度やサービスは必要ですが、それだけでは  
ない人との関わりもやっぱり必要なのだと思います。その中で自分の存  
在が認められたり、人の役に立ったりすることなどは豊かに生きていく  
うえでとても大切なことで、それは誰かの支援が必要な状態になったとして  
も変わらないと思っています。（野川）



# たくさんのHAPPYを 作り出すコーディネートのおすすめ

～実践研究会メンバーからのメッセージ～

私は、同じ思いや経験をした人たちのグループづくりを提案しています。グループ内の助け合いだけでなく、グループ外に向けての発信、ボランティア活動等にも発展していくような仕掛けを、ワーカーはしてみましょ。きっと、人が生き生きと高まっていく姿をみることができるでしょう。

(鈴川)

『便利さ』と『速さ』が重んじられる時代ですが、人間関係の場合、“面倒くさいこと”を丁寧にすることが、“つながり”を生み、お互いお願いしやすい関係ができるような気がします。

メールよりも電話、電話よりも直接会って話すほうがボランティアでも職場でも好印象をもってもらえます。好印象さえもらえれば、いろいろな人をお願いできる『お願い上手』になれますよ。あなた自身が「助けられる」存在になってみては。(但し、助けられた後は、感謝の気持ちをしっかりと相手に伝えてください。これ、重要です!!)

(渡邊)

町に住むもっと多くの方々と出逢い、想いを共有し、発した言葉だけでなく心の中の叫びを聴くということで、「する」「される」関係から「笑顔で共に生きる」関係となるよう、地域福祉活動を取り組んでいけたらと思います。

そしてなにより、自分自身が笑顔で楽しむことをお忘れなく!

(兼松)

環境が整えば、助けられる存在だけであった人にもその人にしかできないボランティア活動が、地域にはたくさんあります。ボランティア養成講座で抜けがちなのが、「助けられ上手になって暮らす、あるいは活動するスキル」ではないかと思います。本当は、誰もが、助けたり助けられたりしながら、暮らしているはずなのですが、ともすればボランティアは助ける立場であると思いがち。助けられ上手講座も必要では…講師は、もちろん決まり! ですね。

(鈴木)

人は役割をもつと生きる力が増します。孤独が産むものより、「誰かの役に立っている」ことの方が、たくさんの宝物を発見できるのではないでしょうか。

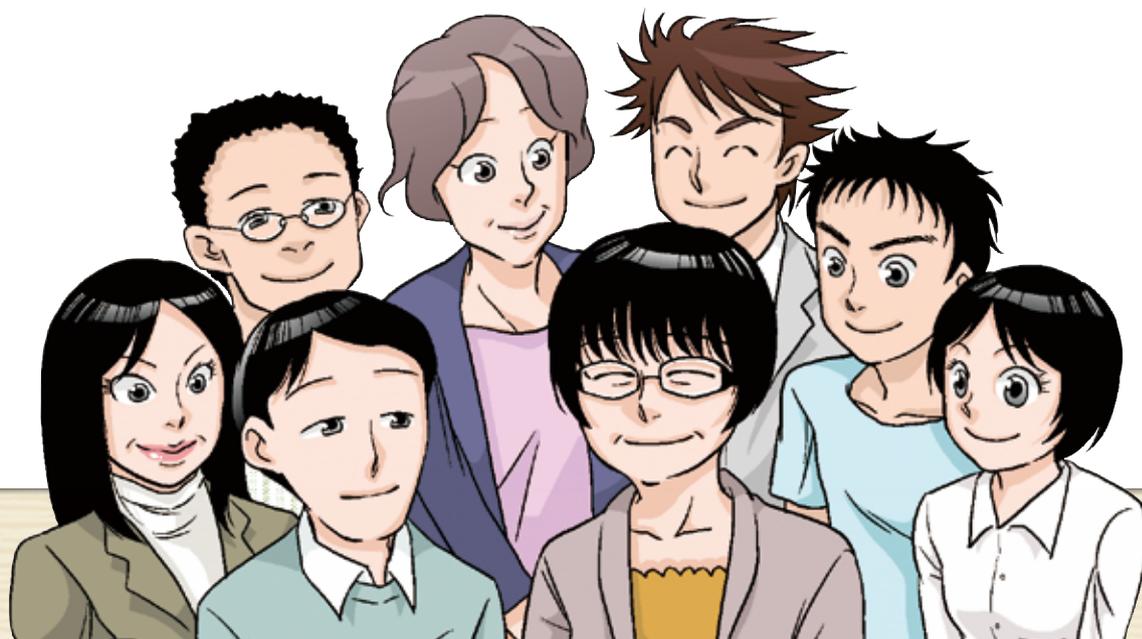
そのきっかけや場をつくることもボランティアセンターの使命だと思います。

決してその人の前に出ず、常に伴走型の支援者でありたいです。

(前山)

自分にとって大切な存在の人がいるのと同じように、目の前の相談者はほかの誰かにとって大切な存在であるということを忘れてはいけません。本人の想いに共感し、決して他人事ではない、本人のプライドを尊重したコーディネートができるワーカーでありたいと思います。

(野川)



## ■ 作成経過

平成 24 年 9 月	第1回実践研究会（事例収集・抽出化）
平成 24 年 11 月	第2回実践研究会（論点整理・セミナー企画）
平成 24 年 12 月 4～5 日	社協ボランティア・市民活動センター担当職員研究セミナー 第1分科会 参加者から事例収集・ワーク実施
平成 25 年 12 月	第3回実践研究会（セミナーふりかえり・事例の整理）
平成 25 年 1 月	第4回実践研究会（報告書の作成）

## ■ 平成 24 年度 ボランティア・市民活動支援実践研究会 委員

県名	所属	部署	役職	氏名
	明治学院大学	ボランティアセンター	コーディネーター	市川 享子
山形県	山形県社会福祉協議会	地域福祉部 ボランティア活動振興センター	地域福祉係長 センター長	渡邊 陽
東京都	荒川区社会福祉協議会	地域ネットワーク課	課長	鈴木 訪子
岐阜県	坂祝町社会福祉協議会	地域福祉課	課長	兼松 右京
愛知県	半田市社会福祉協議会	まちづくり課 ふくし支援課	課長	前山 憲一
広島県	広島市社会福祉協議会	ボランティア情報センター	所長	鈴川 千賀子
事務局	全国社会福祉協議会	全国ボランティア・ 市民活動振興センター	所長	野崎 吉康
	同上	同上	副部長	後藤 真一郎
	同上	同上	職員	野川 すみれ

## 平成 24 年度 ボランティア・市民活動支援実践研究会 報告書 「誰もが必要とされる」たくさんの HAPPY を作り出すコーディネートのススメ

平成 25 年 3 月発行

社会福祉法人全国社会福祉協議会／全国ボランティア・市民活動振興センター  
<http://www.zcwvc.net/>

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞ヶ関ビル  
TEL 03-3581-4656 FAX 03-3581-7858  
E-mail vc00000@shakyo.or.jp